

交通政策審議会観光分科会 第23回 議事概要

1. 日時

平成 26 年 3 月 28 日(金) 10 時 00 分～12 時 00 分

2. 場所

中央合同庁舎 3 号館 11 階特別会議室

3. 出席者

委員:

秋池委員、木場委員、佐藤委員、篠原委員、竹内委員、伊達委員、矢ヶ崎委員、伊藤委員、大塚委員、大橋委員、奥委員、野田委員、山内委員

国土交通省:

坂井国土交通大臣政務官、観光庁、総合政策局、鉄道局、自動車局、海事局、港湾局、航空局

4. 議題

(1) 前回のご指摘事項について

(2) 「2000万人の高み」を目指すための今後の施策について

5. 議事概要

観光庁より、前回のご指摘事項、ならびに2000万人の高みを目指すための今後の施策について、資料に沿って説明。その後、委員による意見交換を実施。主な意見は以下のとおり。

- ・目の肥えた外国人が来てくれると、その人達の情報発信により、他の国・地域からも来る流れができる。目の肥えた旅客を呼ぶことが、一つの宣伝となる。そういう流れを作る戦略を考えていくことも重要。
- ・環境整備について安全の担保が大事だと思う。災害もそうだが、昨今、気候変動による自然災害が頻発している。特に、海外から修学旅行で来る際には、「安全、安心」に神経を使う。自然災害等のイレギュラー発生時の対応が悪いと、もう二度とそこには行かせものかというようになってしまう。対応強化が必要。
- ・イギリスからの訪日外国人数は 10 年前と比較して落ちている。日本の魅力が発信できていれば、伸びるはずである。さらなる高みを目指すためには新規市場の開拓も必要だが、ファンを作って欧米からのお客さんも呼ばないと、送客元のバランスが崩れる。どの国からも訪日外国人数が増えるような戦略が必要。
- ・台湾の教育旅行の数が多い事について。台湾はリピート率も高く、人口に対する訪日

数の割合も高い。非常に良いスキームができています。台湾以外の国にも教育旅行に来てもらいたい。教育旅行に来ていただく時期はオフシーズンが望ましい。特に教育旅行で旅館に来てもらえれば、予約率が低い旅館業界にもメリットがある。教育旅行で来ていただき、大人になってから日本に戻ってきてもらうというスキームは、将来に対する先行投資としてやっていくべき。

- ・プロモーション先について、バランスは大事。欧米などは経済の低迷もあって厳しい部分もあったと思うが、新しい市場開拓において、質の高い観光客に力を入れていくことを考えると、欧米は今後重視していかなければならない。
- ・潜在市場としては、インドの富裕層はお金を持っていて、人口も中国の次に多い。ここに力を入れていくことは重要。東南アジア向けにムスリム対応も進めつつあるので、そのノウハウを活かすという視点で、中近東に対しても取り組んでいくのはどうか。
- ・富裕層を取り込んでいくことを考えると、ビジネスジェット受け入れやラクジュアリーホテル等のインフラの整備等も考えていく必要あり。
- ・プロモーションの促進において、単に「予算を増やせばいい」「事務所拠点を増やせば良い」わけではない。韓国は相手目線、現地のニーズを拾うことに力を入れている。日本は日本人が良いと思うところを売る傾向がある。アジア、中東で日本のどういうものに関心をもってもらうのか、それを現地で拾ってきて分析することが重要。イスラム文化やインドの文化を勉強して、どういう日本のものにニーズがあるか、どういう食文化なのかつかむことが必要。
- ・MICE と観光の相乗効果、連携が重要。MICE は自分で目的地を選ぶわけではない。会社の指示やビジネスで来る。ただ、そこで楽しい経験があると、次は家族と一緒に観光で来ようと思う。オリンピックも一つの MICE。そこから観光につなげていくべき。
- ・日本はこれまでアウトバウンドに力を入れてきたため、旅行エージェントはまだアウトバウンドに目が行っている。海外から日本に送り込もうという部分は手薄である。旅行会社にもインバウンドに力を入れてもらう流れを作ることは重要。
- ・送客元によって日本の魅力のとらえ方が違うし、すごい勢いでトレンドも動いていく。ニーズを正しくとらえた情報発信を共有していくことが重要。

以上